

開館5周年記念展

民家・向井潤吉の画業

1998年7月4日[土]—9月27日[日]

開館5周年を記念して、次の期間、観覧料を無料といたします

1998年7月4日[土]—7月12日[日]ただし7月6日[日]は休館

微雨(長野県木曾郡南木曾町妻籠) 1974年



写実表現を探求した
その足跡をたどって



遅れる春の丘より(長野県北安曇郡白馬村北城) 1986年



早春の水路(埼玉県川越市下新河岸) 1982年



自画像 1919年

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

開館時間—午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)

休館日—毎週月曜日(休日にあたるときは翌日)

観覧料—一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)

65歳以上及び障害者の方100円(80円) ()内は20名以上の団体料金



春叢(埼玉県東松山市神戸) 1988年

開館5周年記念展

民家・向井潤吉の画業

写実表現を探求した その足跡をたどって



御代宿初秋(福島県郡山市湖南町三代) 1965年

平成5年7月、世田谷美術館分館として開館いたしました向井潤吉アトリエ館も、おかげさまで、このたび開館5周年を迎えることになりました。

これまで10万人を超える来館者を迎え、向井潤吉先生の画業を広くご紹介することにつとめてまいりました。また、各地の美術館などへも、積極的な貸し出し事業を展開し、当館のみならず、さまざまな地域、場において、先生の作品をご覧いただく機会を得てまいりました。

このたびの展覧会は、当館と世田谷美術館のコレクションを通じて、向井先生の長年にわたる画業を顧みようとするものです。

向井潤吉先生の画業は、戦後から制作が始まる、日本の伝統的な建築である草屋根の民家をモチーフとした作品の数々に代表されます。と同時に、戦後40年間以上にわたって、先生が民家というモチーフに取り組みされたことは、昭和の洋画壇においても、まさに注目し、特筆すべき事柄であったと言えます。

そして、向井先生が民家作品に取り組みされた時期は、日本が高度経済成長のただ中にあった頃と重なり、作品の中には、失われていった日本の深く豊かな自然の姿もまた、描き残されることになり、今日このことが、多くの向井ファンを生むことになっていると言えます。

本展では、この民家シリーズを中心にご紹介いたしますが、画家としての道程の草創期を、「自画像」(大正8年)や「舞妓」(大正9年)のほか、昭和2年から5年にかけてルーブル美術館において、油彩画研究のために制作された「裁縫する若き女」(ミレーの模写、昭和3年)、「泉」(アングルの模写、昭和4年)などによって振り返ります。

また、戦時中に陸軍報道班員として従軍されていた時期の作品も併せて展示し、写実表現を探求し続けた、向井潤吉先生の真摯な画家としての足跡をたどり、幅広くご紹介いたします。



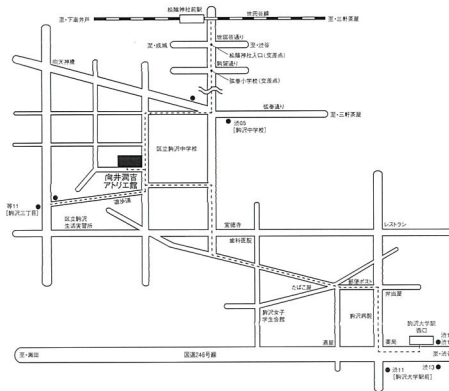
舞妓の顔 1920年



夜の街 1928年



泉(アングルの模写) 1929年



●最寄り交通機関のご案内

東急新玉川線【駒沢大学】 駅西口 下車/徒歩10分

東急世田谷線【松陰神社前】 駅 下車/徒歩17分

東急バス (法05) 渋谷～弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車/徒歩3分

東急バス (等11) 祖師谷折返所～等々力 【駒沢三丁目】 停留所下車/徒歩3分

東急バス (法11) 渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

東急バス (法13) 渋谷～砧本村 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館
 〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1
 TEL 03-5450-9581